

## 第3回協議会の概要

1. 小田川合流点付替え事業に伴う川づくりについて	1
2. 第3回検討協議会の議事要旨	2
3. 検討フローと役割分担	4

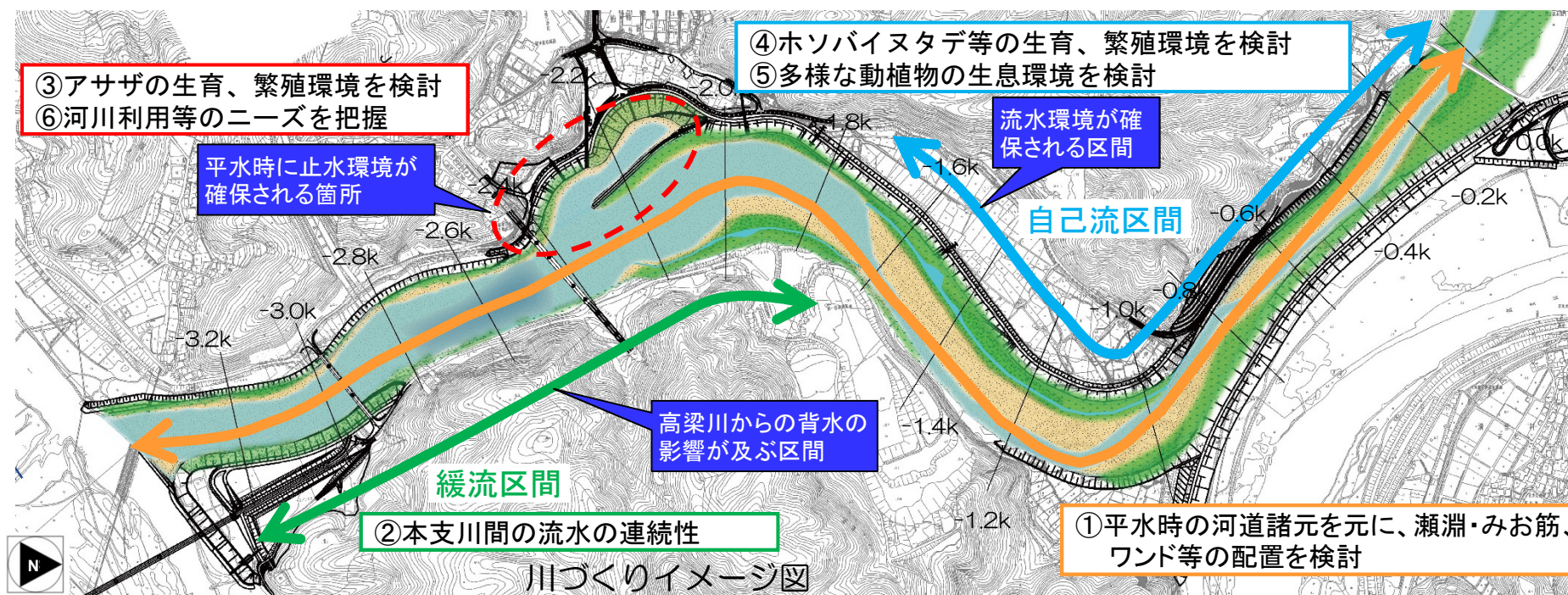
岡山河川事務所

# 1. 小田川合流点付替え事業に伴う川づくりについて

## 目標

- 新たに創出する付替河道において、現小田川の環境を延伸し、多様な動植物の生息・生育、繁殖環境、また河川利用を考慮した空間を創出する。

分類	検討項目
多自然川づくりとして取り組む項目	1. 平水時の流水環境整備(瀬淵、みお筋、ワンドの創出) 2. 高梁川と小田川の環境バランス、連続性の確保
環境影響評価結果を踏まえて取り組む項目	3. アサザの生育環境の保全 4. ホソバイヌタデ等の一年生草本の生育適地の整備 5. 多様な動植物の生息環境の創出
地域からの要望により取り組む項目	6. 河川利用等の観点から親水性への配慮



## 2. 第3回検討協議会の議事要旨

項目	意見等の内容	対応方針
河道の維持管理	局所洗掘に対する河床の安定性や締切堤の構造検討が必要である。	維持管理における留意事項として整理する。 →資料②p.6
	将来的な付替え区間上流の河床低下に対して、上流クリーク(堤外水路)の水位の維持、河道の維持・安定化の観点から検討する必要がある。	整備計画などの付替え事業以外の事業計画も踏まえ、河床低下量を精査し、現況と将来における本流の河床と水位、堤外水路の水位などの関係を整理する。→資料②p.7
多様な動植物の生息環境の創出(クリーク)	クリークの平面位置は、極力河床変動の影響を避けるために内岸(堤防側)に寄せるべきである。また、クリークが埋まることも想定して、高水敷の冠水を防ぐために、高水敷に横断勾配をつけることも検討が必要である。	平面位置について、可能な限り堤防側に線形をふる形状を検討する。高水敷の横断勾配は、排水に関係するため、設計時の配慮事項として記載する。→資料②p.17
	クリーク下流端は、計算よりも堆積する可能性があるため、河床が上がった場合やクリークが埋まった場合も想定して、湛水や魚の進入にも配慮して、クリークの縦断形を検討する必要がある。	ステップ&プール構造、下流端の高さなどクリークの縦断形について、現況の堤外水路や他河川の事例を参考に再考し、横断形も含めて検討する。 →資料②p.18
	現況の堤外水路の縦断や川幅の変化を確認して、クリーク形状の設計に活かすと良い。	
	洪水時に、魚や二枚貝がフラッシュされないための避難場が必要である。	確実に取水でき、かつ、クリークへの土砂流入を防ぐための対策を実施する。→資料②p.19
	鉤型の水制について、魚が入りやすい構造(霞堤など)を検討する必要がある。	
	二枚貝の定着環境として重要となる底質の状況を検討する必要がある。	

## 2. 第3回検討協議会の議事要旨

項目	意見等の内容	対応方針
アサザの 生育環境の保全	アサザ以外の生物についても配慮した環境を作ると良い。	アサザの保全池として止水環境を創出することで、現在の止水環境が保全され、そこに生息する生物が生息することができる。 →資料②p.27
	ゴミの漂着を前提としておく必要がある。 有機物の堆積による嫌気化についても検討が必要である。	保全池内にゴミが堆積した場合は、日常の維持管理の中で適宜対応していく。 有機物の堆積については、維持管理の配慮事項を整理する。
本支川の 連続性	アユが産卵可能な礫の状態(底質条件)が維持されるかについても整理が必要である。	付替え前後の河床材料の変化を整理する。 →資料②p.33
河川利用	管理のため、重機が進入可能なデザインの検討が必要である。	地元の利用者と相談すると共に利用の方向性を決定し、デザインに反映させる。 →今後、地域の方々と議論する
	川の中からのアプローチなど、利用を踏まえたデザインの検討が必要である。	

### 3. 検討フローと役割分担

